



# 小学生のがん教育を考える

2015年2月7日(土)

13:30-16:30

(公財)がん研究会 がん研究所  
吉田富三記念講堂 (170人収容)

**参加費無料** 一般の方歓迎

超高齢化社会をむかえる日本では、がんは年々増加し、二人に一人ががんになり、三人に一人はがんでなくなるほどになった。がんは健康問題にとどまらず、経済問題を含め、今や大きな社会的課題であるが、がんは「予防」により大きく減らせることが諸外国で示されている。その予防の姿勢を身につけるには、子ども時代での教育が重要だが、なかなか進まないのが現状だ。学校の先生は多忙で、一人でがんを教えるのは難しい。そこをどうやって乗り越えていくか、みんなで考えて行こう。子どもの未来と国の将来のために。

司会 野田 哲生 がん研究会がん研究所 所長  
日本癌学会 理事長

望月友美子 国立がん研究センターがん対策情報センター  
たばこ政策研究部 部長

がん教育の社会的重要性

門田 守人 がん研有明病院 院長、がん対策推進協議会 会長  
日本医学会 副理事長

小学生のがん教育とは—“小学生からのがん教育を考える会”の討議から—

北川 知行 がん研究所 名誉所長  
UICC日本委員会 委員長

がん教育:大きくなってからでは遅い

垣添 忠生 日本対がん協会 会長  
がん対策推進協議会 前会長

がん教育:文部科学省の検討状況を踏まえて

衛藤 隆 文科省「がん教育」の在り方に関する検討会 座長  
日本子ども家庭総合研究所 所長

豊島区教育委員会の取組み

細山 貴信 東京都豊島区教育委員会 統括指導主事

海外のがん教育の現状と我が国への示唆

望月友美子 国立がん研究センターがん対策情報センター  
たばこ政策研究部 部長

小児がん患者とがん教育

中川原 章 佐賀県医療センター好生館 理事長

小学生のがん教育:バリアとその克服  
—“小学生からのがん教育を考える会”の討議から—

西山 正彦 群馬大学病態腫瘍薬理学 教授  
日本癌治療学会 理事長

特別発言 植田 誠治 聖心女子大学文学部教授、日本学校保健会「がんに関する検討委員会」委員長  
文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会 委員

総合討議

主催: UICC日本委員会・日本対がん協会

後援: 文部科学省、厚生労働省、  
日本癌学会、日本癌治療学会、  
日本小児血液・がん学会、  
日本小児科学会、日本学校保健会

■会場(がん研究所03-3570-0542)へのアクセス……

